

## 水素サプライチェーン構築ロードマップ [ポイント]

道では、この度、北海道水素社会実現戦略ビジョンに基づき**水素サプライチェーン構築ロードマップ**を作成しました。本ロードマップにより、水素サプライチェーンに関連する企業、団体、市町村等と連携し、北海道水素社会実現戦略ビジョンを推進していきます。

### 大きく3段階に分けて、水素サプライチェーン構築までの行程を示しました

**STEP 1 (2016年 – 2020年頃) : 水素の利活用の促進と地産地消を基本とした水素サプライチェーンモデルの構築**



**STEP 2 (2020年頃 – 2030年頃) : 水素サプライチェーンの広域展開**



**STEP 3 (2030年頃 – 2040年頃) : 再生可能エネルギー由来水素のサプライチェーンの構築**

### 水素サプライチェーン推進・導入に向けた初期段階の取組を示しました (STEP1)

- ◆エネファームの導入促進
- ◆FCVの導入促進、水素ステーションの整備促進
- ◆地産地消を基本とした水素サプライチェーンの検討

### エネファーム、FCVについて、普及を目指す水準を設定しました

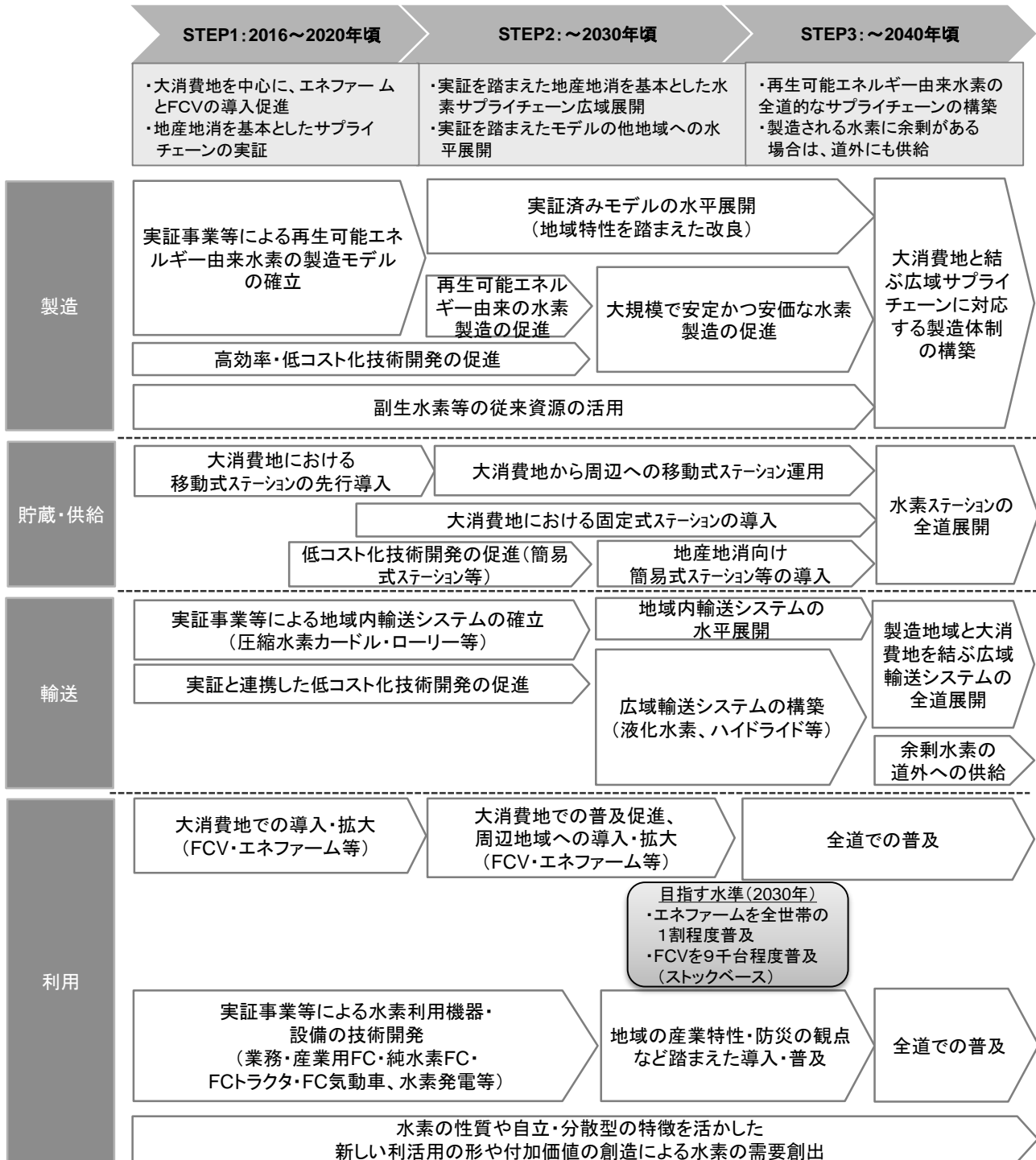
#### エネファーム : 2030年に全世帯の1割程度普及

- ◆国の水素・燃料電池戦略ロードマップにおいて、2030年に全世帯の約1割に当たる530万台を普及させることとしており、本道においても同程度の普及を目指します。

#### FCV : 2030年に9千台 (ストックベース) 程度普及

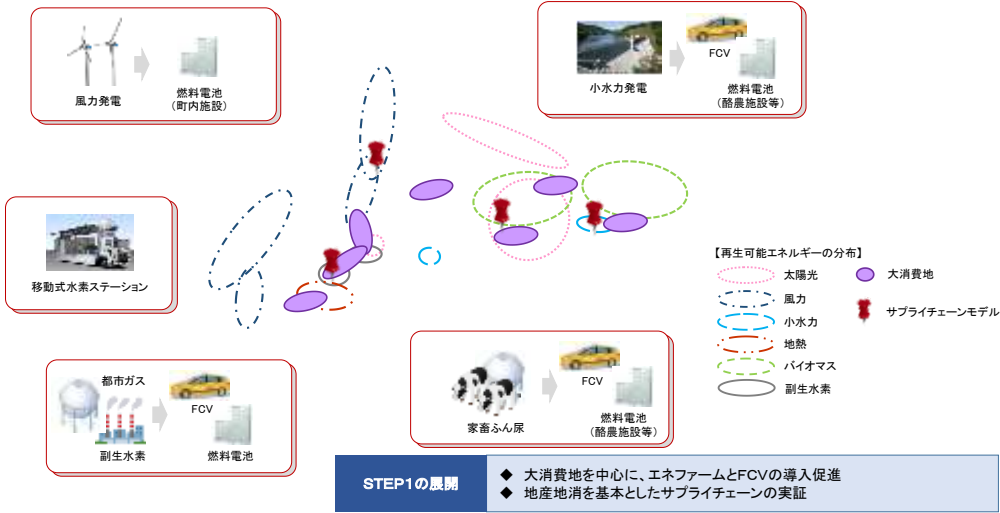
- ◆FCVや水素ステーションは四大都市圏において先行して普及している状況にあることを踏まえ、国の水素・燃料電池戦略ロードマップにおいて2025年までに普及を目指している20万台程度のうち、本道が占める自動車保有台数割合 (4.6%) 程度の台数を、2030年までに普及することを目指します。

# サプライチェーン構築ロードマップ行程表

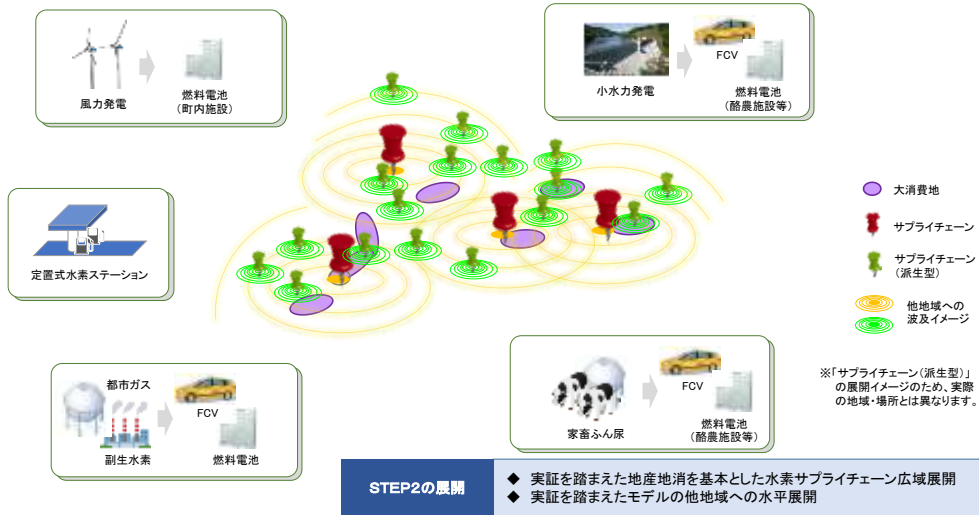


# 【参考】展開イメージ

## STEP 1 2016～2020年頃：水素の利活用の促進と地産地消を基本とした水素サプライチェーンモデルの構築



## STEP 2 2020年頃～2030年頃：水素サプライチェーンの広域展開



## STEP 3 2030年頃～2040年頃：再生可能エネルギー由来水素のサプライチェーンの構築

